

# 試 験 地 設 定

区分 指示

福岡 営林署

(様式1)

開発課題	造林の初期管理における省力法 ササ類の防除試験				期間	自57年度 至58年度	
開発目的	ササ類の防除は塩素酸塩系除草剤で実施していたが、今後新たに開発される薬剤の試験並に効果的防除技術を開発し体系化をはかる。						
設 定	場 所	営 林 署	担 当 区	国 有 林	林 小 班		
		福 岡	早 良	立 拝 山	90に		
	数 量	面 積	数 量				
		設 定 年 月 日		終 了 年 月 日			
担 当	営 林 局	技術開発室 栗 明石企画官係					
	営 林 署	経 営 課 造 林 係					
地況及び 気 象	標 高	方 位	傾 斜	基 岩	土 壤 型	土 性	
	820m	NE	20°	花崗岩	BD	植質土	
	深 度	堅 密 度			地 位		
	中	軟			スギ	ヒノキ	

林 令	林 種	樹 種	混交率	胸高直径	樹 高	材 積	本 数	相対照度	下層植生
9	人工林	スギ	100						ササ・ススキ 雑草
昭和44年度天然広葉樹林伐採跡地で昭和45年度新植 46.0 極付 スギ 0.25HA 11,400本 46.7 下刈 47.0 補植 ヒキ 0.25HA 2,000本 47.7 下刈 48. } 下刈 49. } 50. } 51. } 58. 除伐									
従来のササ枯殺剤のほかに新たに開発された薬剤による枯殺効果を 実験するとともに、除去後の抑止枝による再発生抑止、並びに結 実促進による枯殺方法等化学的、物理的、生理学的方法について、効果 と経済性について比較検討し、収穫から造林に至る連携技術の確 立をはかる。									

- 記載要領
- 区分は指示、自主、任意課題別とする。
  - 全体計画欄は年度別、実施事項及び目標、また、林試等の指導関係を記入する。

# 試験地設定

(様式2)

区分 指示

福岡 営林署

## 実施計画画

### 生理学的方法

竹の開花結実の習性を利用し、開花促進剤として薬剤「ジベレリン」(植物成長調整剤)を一定濃度で撒布して開花結実については枯死に至る方法を検討する。

### ジベレリン撒布要領

撒布時期 7月中旬 及び 8月中旬

薬液 ジベレリン 0.5%

濃度 10倍液 及び 20倍液

撒布量 おおむねササの葉面がぬれる程度

撒布方法 背負式手動噴霧器を用いる。なお薬剤はホルモン剤でとくに人畜に害はないが、用心のため風上を背に背行しながら撒布する。2月分も同手法による。

### 備考

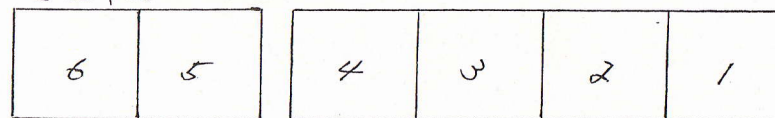
この撒布は材料植物(この場合ササ又は竹類)の花芽形成の直前及び形成時期に促進剤として実施するので時期を失しないよう処理が必要がある。

試験設定図

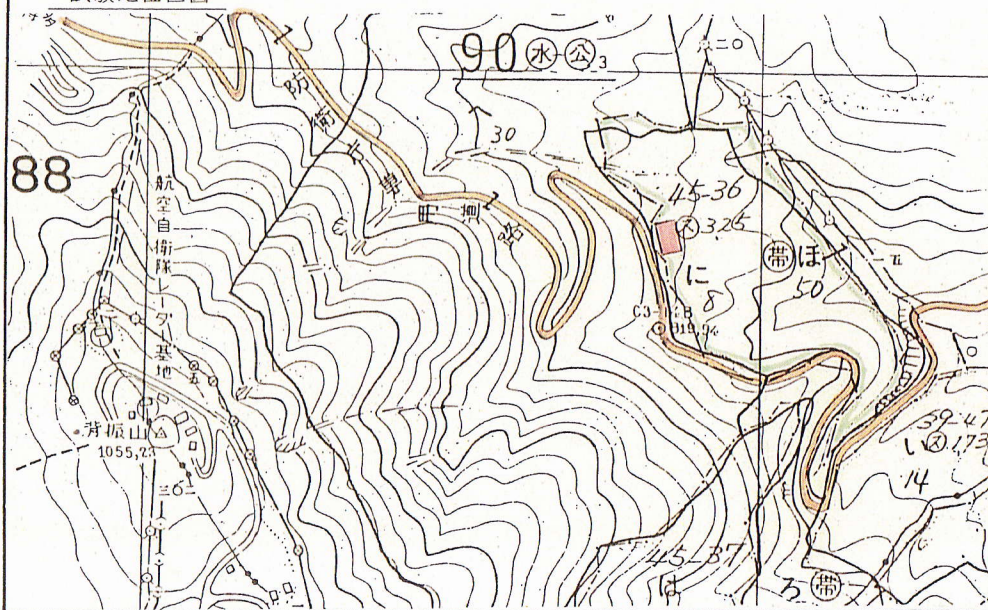
区画	面積	溶剤	塩化加里	ジベリン	備考
1	10m×10m 100m <sup>2</sup>	10 kg	5 kg	500 ppm	
2	"	20 "	10 "	500 "	
3	"	5 "	2.5 "	500 "	
4	"	10 "	5 "	250 ppm	
5	"	20 "	10 "	250 "	
6	"	5 "	2.5 "	250 "	
計	600m <sup>2</sup>	70 kg	35 kg		

区画別処理区分表

区画平面位置図



試験地位置図



# 試験経過記録

区分 指示

福岡 営林署

(様式4)

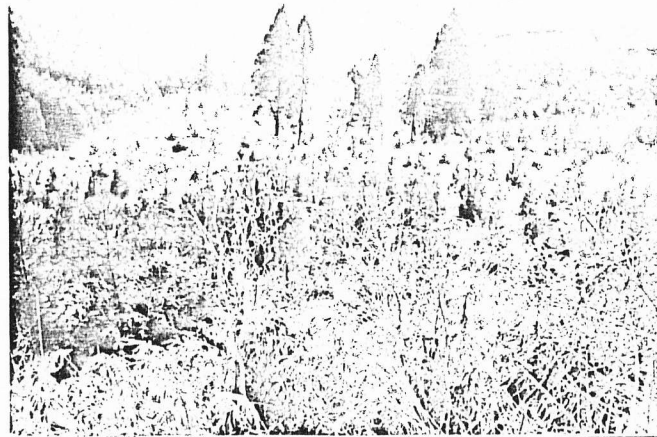
<p>昭和54年6月16日 天候「曇」 生理的刺戟(激)を与え(枝葉の切断)。開花促進のため施肥(溶磷、塩化加里)を実施した。6区画の試験地設定</p>		
<p>昭和54年7月24日 天候「快晴」 開花促進剤としてジベレリンの一定濃度液を各プロットに背負式噴霧器でササに散布した。(第1回目散布) 1プロット 100 m<sup>2</sup>の散布の量は必要である。</p>		
<p>昭和54年8月20日 天候「晴時々曇り」 第2回目のジベレリンを散布。濃度、散布量は第1回目に同じ。 第1回目散布時と比較して変化ない。</p>		
<p>昭和55年11月 追跡調査実施。</p>	<p>変化は認められない。ササ類の成長旺盛。 開花なし。</p>	
<p>昭和56年10月 前年に同じ</p>	<p>サ林木の生育と良好である。</p>	
<p>昭和57年11月 前年に同じ</p>	<p>効果認められない。</p>	
<p>昭和58年1月 除草剤(テリルト粒剤)を隣接地に試験地設定し散布を実施。</p>		
<p>昭和58年11月 追跡調査。</p>	<p>ジベレリン試験地は効果認められない。 除草剤試験地。散布時期を逸したため枯殺効果はあまり認められない。</p>	
<td data-bbox="224 1109 1052 1436"></td> <td data-bbox="1052 1109 2150 1436"></td>		

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
  2. 状況写真は別途整理する。

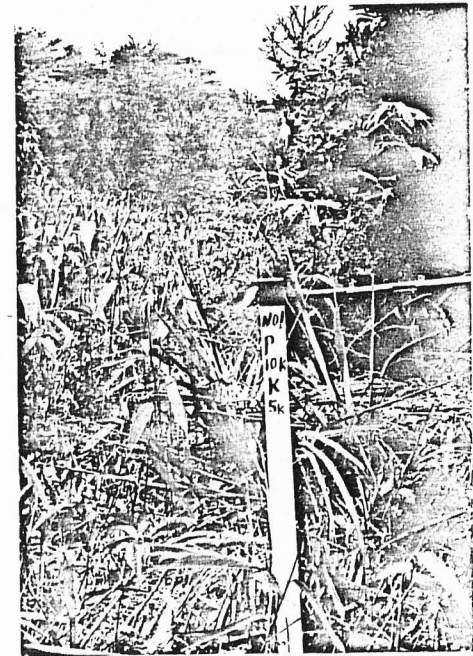
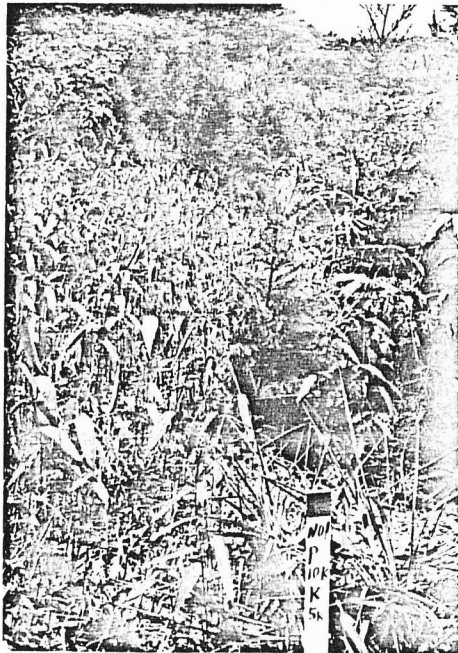
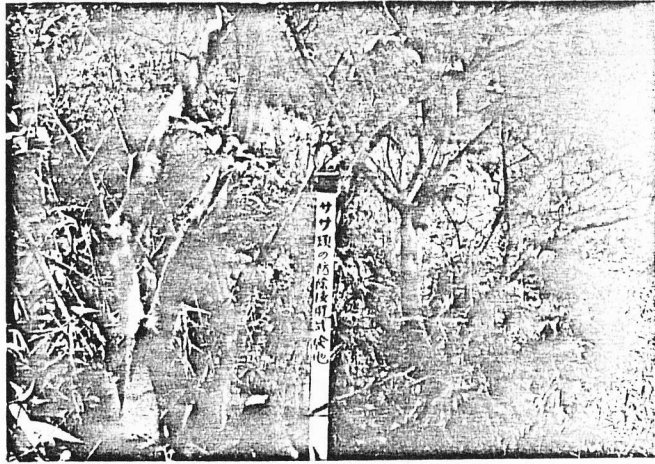




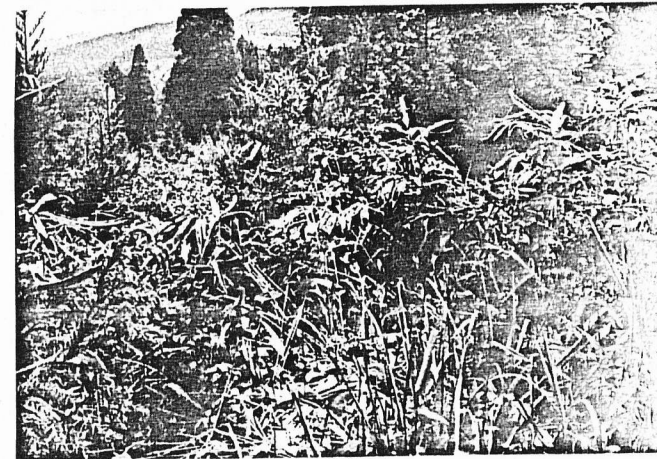
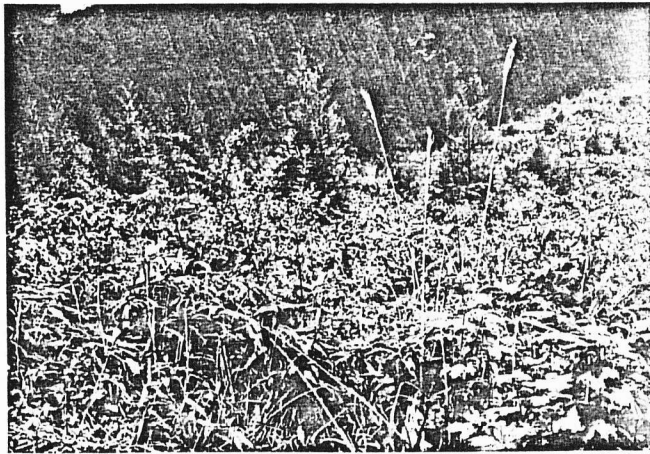
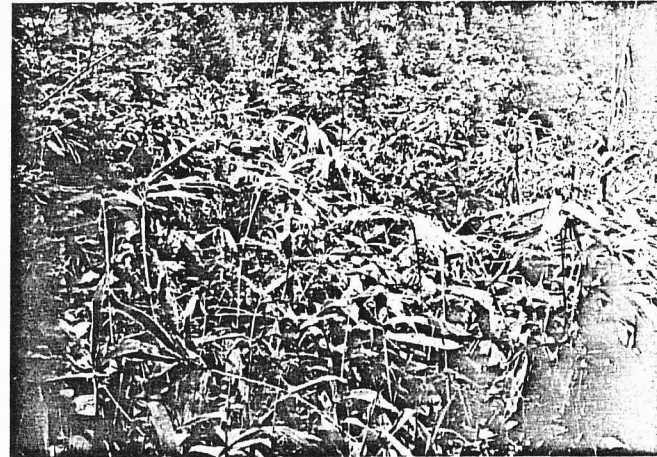
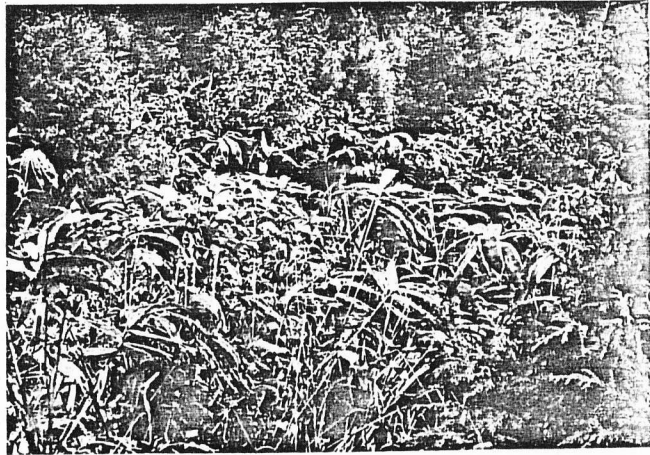
4. 杉並付地  
54. 3. 16 号



ト  
4. 柘杖河原地 54. 5月 10日 富士



枯殺計驗地 6月1日寫





# シベリン 散布 実行内訳

1. 試験地 立拝山国有林 90 林小班

1. 実施月日 昭和54年 7月 24日

1. 天候 快晴

散布 500ppm, 250ppm

1. 散布量

散布 500ppm, 250ppm

散布 500ppm, 250ppm

(A) 1~3プロット 濃度 500ppm

水10L当り シベリン 顆粒 100本

水9L シベリン 90本 溶解散布

(B) 4~6プロット 濃度 250ppm

水10L当り シベリン 顆粒 50本

水10L に 50本 溶解散布

1. 所見

5月時は筈, 不登, その他雑灌木とも, 成育途上で  
小さかったが, 今時点では 1.5m 前後で旺盛な繁茂を  
して林内に入らず, 各プロットの切開き工事に散布道の  
切開きを行って散布を行ったが, 筈の葉がぬれる程度  
には必要, 水の量は 1プロット当り 10L は必要であると  
思われる.



昭和44年7月24日 快晴 シベレリン散布





# 笔試験 シバリン 散布(2回)

1. 昭和54年8月30日 晴時にくり

1. 散布量 28本 (200ml)

1. 至費 薬代  $38 \times 750 = 28,500.-$

1. プロット当り散布量

123 プロット 水10L当り シバリン 25本  
濃度  $500 \frac{\text{ppm}}{\text{ml}}$

426 プロット 水10L当り シバリン <sup>13</sup>18本  
濃度 250 ppm

1. 実行取次

経営課長 造林係長 白石元氏  
高橋技官

1. その他意見

前回7月24日(10回散布)と比較して笔そのものの  
変化がみられず伐開いた跡は変化なく作業が容易であった。